



愛研技術通信

解説

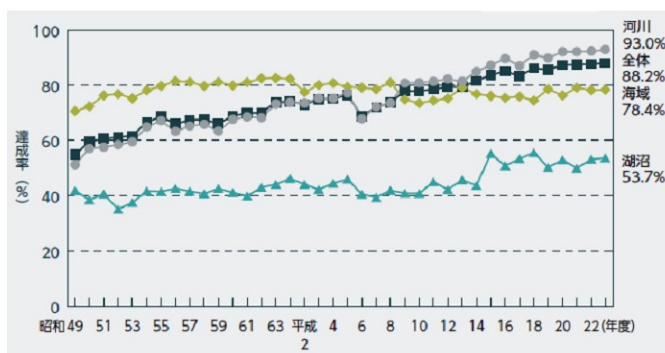
名古屋市水質目標値の改正について

藤野 彰

平成 25 年 9 月に行われた名古屋市水質目標値の一部改正について、その背景と内容を解説します。

公共用水域の環境基準の達成に向けて、昭和 40 年代からの産業排水対策がひとつの効果を収めた後も、都市及びその周辺の中小河川の水質改善を図るため下水道や合併処理浄化槽の整備を始めとする生活排水対策が特に昭和 50 年代から強く推進され、汚水処理人口普及率は全国でも 90% 近くまで向上してきた。それに伴い、全国の河川における環境基準達成率は近年 90% を上回るようになってきた。

環境基準達成率(BOD 又は COD)の推移



(平成 25 年版環境白書)

汚水処理人口普及率の推移



(平成 25 年版環境白書)

名古屋市は「水質目標値」として、国が定める環境基準と同等かそれより厳しい水質を設定しており、今回の見直しは上記の背景に沿い、近年の各水域における水質状況と計画等を考慮し、更なる水質改善を目指すとして、より厳しい水質目標への改定を中心に行われたものである。

BODについてみると、堀川は環境基準D類型(8mg/l以下)に対して☆☆(5mg/l以下)か

ら☆☆☆(3mg/l以下)又は☆(8mg/l以下)から☆☆(5mg/l以下)へと、中川運河、新川は環境基準E類型(10mg/l以下)に対して☆(8mg/l以下)から☆☆(5mg/l以下)へ改正されるなどしている。

今回はその他に、水生生物環境基準に係る項目(全亜鉛、ノニルフェノール、LAS)の追加、「親しみやすい指標による目標」の見直しもされている。

水質目標値について(平成25年9月13日名古屋市公表資料から)

水質環境目標値とは、市民の健康を保護し、快適な生活環境を確保するため、環境基本条例に基づき、本市が独自に水質の目指す姿を定めたものです。地域の状況に合わせ、国が定める環境基準と同等かそれより厳しい目標を設定しています。

水質環境目標値の見直しについては、前回見直しを行った平成17年度以降の水質状況の変化に対応するため、平成23年9月に名古屋市環境審議会に諮問し、以降、審議会において検討をしてまいりました。平成25年7月に名古屋市環境審議会から答申がなされたことより、答申の内容を踏まえ、今回、一部改正の告示を行いました。

<水質環境目標値の構成>

水の安全性に関する目標(健康項目):カドミウム、シアン等

水質の汚濁に関する目標(生活環境項目):pH、BOD等

親しみやすい指標による目標:水の色、ごみ等

改正のポイント

○堀川中下流部、中川運河をはじめとした8地域における水質環境目標値の引き上げ

よりよい水質を目指すため、前回見直しを行った平成17年度以降の水質状況や河川の計画等を考慮し、河川8地域について水質環境目標値の引き上げを行いました。

○水生生物の保全に係る項目の追加

水生生物の保全を進めるため、水質の汚濁に関する目標に、「全亜鉛」、「ノニルフェノール」、「直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(LAS)」を追加しました。

○親しみやすい指標の表現等の見直し

親しみやすい指標は市民が簡便に、かつ感覚的に水質の状況を調査するため設定している目標です。より分かりやすい指標となるよう表現等を見直しました。

